

### 経済インベントリマトリクスとは

気候変動現象が、世界規模の社会経済と地球規模の気候システムが一体として関与しているものである。したがって、社会経済システムを構成する主体は、リスクを評価し受け止め、さらにまたそれに反応し、能動的に管理する主体であると同時に、気候システムを変化させる主体でもある。主体には、世界、地域・国家、地方行政、個別経済主体（産業、企業、消費者・個人）が、階層的に縦につながると同時に、複数の地域・国家同士の相互関係など、並列的な関係がシステム化されている。そして、こうしたシステム化した主体が、気候変動の影響を受ける単位であると同時に、気候変動に適応策を行なう単位にもなっている。本インベントリマトリクスは、主体-影響-適応の関係性を、マトリクス上に関係づけ、相互の関係性の強さ等について、予測されるレベルを記載したものである。

それぞれの主体が、将来に対してどの程度の割引率を持っているかを評価し、また、気候変動の影響については、直接的な影響と、経済システム、特に市場がどの程度その影響を緩和することができるか評価している。

特に、主体の相互関係については、環境が公共財であるところから、複数主体によるゲーム論的状況のもとで相互関係を持つ可能性を考慮し、その関係性の特性を明らかにしている。特に、多主体との協調、非協調、提携の可能性、行動の不確実性を考慮している。さらに、本マトリクスにもとづいて、シミュレーションモデルを構成することを前提にして、その可能性についても一定の評価を与えている。

ICA-RUS REPORT 2013 では本インベントリマトリクスに関する記載はないが、リスクインベントリおよび対策インベントリと同様の利活用が期待できる資料である。